



静岡 陸協 会報

第 9 号 (2010年 9月25日発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2 F
TEL・FAX 054-253-9801



**平成二十二年度
前期について**
理事長 和田隆保

理事長に就任して一年余り、大過なくやってこれたのは一重に会員皆様のご理解、ご協力のお陰です。厚くお礼申し上げます。昨年は静岡陸上に少し元気になる気配がみえました。今年は昨年以上を目標にこの元気が本物となるよう協会としても応援していきたいと思えます。

先般、六月四日から香川県で開催されました第九十四回日本陸上選手権に於いて本県から十七名の選手が出場し、多数の優勝、入賞を果しました。特に発足新しいスズキ浜松 A C は出場者十名全員が入賞、五種目に優勝するなど大活躍でありました。この結果、秋に中国広州で行われる第十六回アジア競技大会に村上幸史君、海老原有希さん、武田毅君（いずれもスズキ浜松 A C）がそれぞれ男女やり投と三〇〇〇 m S C、鈴木崇文君（チムミズノ）、笹瀬弘樹君（早大）が棒

高跳の代表に決定しました。五人もの多くの選手を送り出せるのは大変うれしいことであり、大いに活躍されることを祈ります。本年はいろいろな国際大会に多数の選手が選考され、出場しております。ユースオリンピックアジア選考会（シンガポール）走幅跳、松原奨君（東海大翔洋）、四〇〇 m、大石真功君（浜松市立）、松原君は二位に入賞し、八月行われる第一回世界ユースオリンピックにもアジア代表として出場します。アジアユース選手権（ハノイ）には四〇〇 m に横山直広君（浜松西）、伊藤卓君（浜名）が出場し、リレーで優勝、入賞を果しました。

また、カナダで行われた世界ジュニア選手権に於いて飯塚翔太君（中央大）が男子二〇〇 m で優勝という快挙を成し遂げました。これは日本短距離界を大いに勇気づけることであります。これまでの精進、努力を称えらるとともに、今後益々の活躍を期待します。

さて、四月から七月までの前期の事業ですが、予定通り実施しました。主なものは、五月三日、第26回静岡国際陸上を

エコパで開催、天候にも恵まれ昨年を上まわる一万四千余の観衆を集めました。女子二〇〇 m で福島千里選手が日本人女子でははじめて23秒の壁を破り、22秒89の日本新記録を二年連続して樹立。また、久しぶりに男子ハンマー投は八〇 m 付近の争いを展開しました。出場者の多くが好記録を出し、観客も大いに楽しんだ競技会だったと思います。県高校総体を五月二十八日（三十日）同じエコパで実施し、好記録が続出。男女とも総合は浜松市立が獲得しました。六月十八日より名古屋瑞穂競技場で行われた東海総体を経て、男子六十名、女子三十三名が沖繩インターハイに駒を進めました。今年は男子に好選手が多く見られ、インターハイの結果が楽しみです。六月十三日には小学生交流大会県予選を草薙で、小学生の元気な姿に将来の明るさを感じました。また中学生は七月三日、第二十四回中学選抜大会、十七・十八日に第五十六回県中学通信陸上と同じく草薙で実施、参加標準記録を六十余名の多くの選手が突破して八月に鳥取市で開催される全日本中学生選手権の出場権を得ました。今年も元気な競技を望みます。また、通信大会は第六十三回中学総体も兼ねており、男子浜松天竜中、女子清水四中が総合優勝しました。七月十日・十一日には第六十五回静岡県陸上競技選手権を草薙で開催しました。参加者の減少を心配しましたが、昨年より少し増加で、大学生の多数の参加しました。男子砲丸投で県新記録、女子四×一〇〇 m R で県高校新記録と活気のある競技会になりました。皆様のご協力を得て今後とも盛り上がりのある県選

手権にしていきたいと思えます。長距離記録会、国体少年成年予選会も予定通り二回ずつ実施しました。五月二十八日にはエコパで常任理事会を開きました。また陸連の主催ですが、J A A F アスリート発掘プロジェクト U-12 クリニックを七月四日エコパで開催し、小学五・六年生とその保護者二〇〇名近くの参加がありました。日本陸連普及コーチ五名による実技と保護者向けの講義があり、陸協普及部の皆さんの積極的な支援もあつて充実したものになりました。

日本陸連では来年四月から公益法人にする準備が着々と進んでおります。法人化されると組織が大きく変わるとともに地方陸協法人化への指導が強まるものと思われま

ほとんど土・日曜日、また祭日を競技運営・審判に携わって下さいます会員の皆様には本当に頭がさがります。八月以降も主催・主管競技会が数多く開催されます。変わらぬご支援、ご協力をお願い致します。

最後に、去る五月九日、小掛照二日本陸連名誉副会長が逝去されました。大昭和製紙で選手として活躍され、三段跳で16 m 48 の世界記録を樹立、日本陸連、J O C 副会長を歴任、ロサンゼルス、ソウル両五輪の陸上競技監督も務められました。また静岡陸上発展に多大な尽力を賜りました。ここに生前のご厚情に感謝し、深い哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



平成二十二年度第一回理事会 及び専門委員長会議開催

八月十三日、県体育協会（草薙）、大会議室に於いて県陸協理事會・専門委員長會議を開催した。また同時に第六十五回国民体育大会選手選考委員会も行った。齊藤斗志二会長の挨拶に続き、和田隆保理事長の議事進行で行われた。

○議事

- ・第六十五回国民体育大会選手選考について
- ・平成二十一年度強化委員会決算・説明
- ・平成二十三年度県陸協大会日程第一次案について
- 報告事項
- ・平成二十二年度協会各栄章受賞者について
- ・第二十六回全国小学生陸上競技交流大会及び第二十七回東海小学生リレー競走大会県選手団について
- ・競技会リレー監察用カメラの使用について
- ・その他

(広報)



静岡国際陸上を観戦して

静岡県教育委員会
教育長 安倍 徹



五月三日、袋井市のエコパスタジアムで「第二十六回静岡国際陸上競技大会」が、国内外から

トップアスリートを招いて盛大に開催されました。静岡陸上競技協会のお招きにより、トップレベルの試合を間近で観戦するチャンスを得たので、一言感想を述べさせていただきます。

女子二〇〇mにおいて日本人で初めて23秒の壁を破り、22秒89の日本記録をうち立てた福島千里選手のしなやかな走り、スタジアム内の観衆の目が釘付けになりました。

また、県内出身の大学生が数多く出場し、日本のトップクラスの選手に成長したその姿は、関係者のみならず県内陸上競技ファンにとって大きな喜びです。中でも、昨年男子二〇〇mで高校総体を制した飯塚翔太選手が、スケールの大きな走りで見事な記録を挙げた姿は、将来オリンピックで世界の強豪と渡り合える選手となる可能性を感じました。

こうしたトップレベルの激闘の間に将来のトップアスリートを目指す小学生の種目が行われたのですが、小学生男子一五〇〇mのレースでは感動する場面がありました。スタートして間もなく集団で選手同士が接触し、一人の選手が転

倒してしまいました。その瞬間、もう一人の選手が立ち止まり、転倒した選手が立ち上がって走り出すのを待ってから走り始めたのです。先にゴールした選手は転倒した選手をゴールの先で待っており、「ゴール後に「だいじょうぶ。ごめんね。」と声をかけている様子でした。競技中に立ち止まるというこの選手の行動は、勝負の世界では決してほめられるものではないかも知れませんが、相手を気遣う純粋な気持ちで自然に出てしまったものと、そのフェアプレー精神に感激しました。

本県では、県民の誰もがそれぞれの目標に応じてスポーツに親しむことができ「生涯スポーツ社会」の実現を目指して、多くの事業を実施しておりますが、「静岡国際陸上競技大会」に代表されるように県民と夢と感動を与える貴協会の取り組みは大変心強く、今後も大いに期待するところであります。

結びに、本大会の開催のあたり御尽力をいただきました関係の皆様深く敬意を表しますとともに、静岡国際陸上競技大会がますます発展されますことを心から祈念申し上げます。

平成二十二年度 各栄章表彰者

○功労者表彰

- 久保田金也(富士市) 足立公生(南南町)
- 野村栄樹(富士宮市) 西野忠男(藤枝市)
- 原田洋一郎(焼津市) 新聞一夫(島田市)
- 鶴田昌一(掛川市)

○優秀選手表彰

- 大石真功(浜松市立高校) 六・三〇
- ジュニアユース四〇〇m 48秒92

- 松原 奨(東海大翔洋高校) 十・二
- 大分国体少年B 走幅跳 7 m 24
- 日吉克実(修善寺中学校) 十・二三
- ジュニアオリンピック男子B
- 一〇〇m 11秒02
- 植松倫理(天竜中学校) 八・二十二
- 全日本中学 棒高跳 4 m 50
- 松本奈菜子(清水ミズノSSC) 十・二
- ジュニアオリンピック女子C
- 八〇〇m 2分15秒25
- 木村友香(籠上中学校) 十・二
- 国体少年B
- 一五〇〇m 4分23秒11 東海新
- 十・二三 ジュニアオリンピック女子A
- 三〇〇〇m 9分22秒71 東海新

○財団法人日本陸上競技連盟S級審判委嘱者

- 青木壽彦(富士市) 石上四郎(富士市)
- 榎本武泰(河津町) 葛西金文(御殿場市)
- 近藤伸明(沼津市) 齊藤伸久(南南町)
- 高村良正(御殿場市) 竹川三郎(富士宮市)
- 塚本 至(御殿場市) 渡辺義久(富士市)
- 佐山 正(伊東市) 高野胖人(藤枝市)
- 山田勝久(焼津市) 山下一夫(磐田市)



(総務)

審判講習会開催

県陸上競技協会は、三月二十八日に平成二十二年度審判講習会を三地区で開催した。(東部支部は富士、中部支部は草薙、西部支部はエコパ)。

内容は日本陸連の競技規則の修改正や競技会で使用する略語・略号等について、また新規登録者の講習も行った。本年度の本県の審判登録者は四月末現在で約一千人、そのうち約百人が新規登録をした。

(広報)



県陸上略史(9) 明治神宮競技大会

参与 伊藤英一

明治天皇の御聖徳を仰ぎ併せて国民の体位向上と国民精神の高揚を図るため内務省が主催し道府県単位の選手団による総合体育大会が開催された。

第一回大会は大正十三年十月三十日午前九時開会式、会場は外苑競技場(大正十三年十月二十五日完成)で海軍軍楽隊

の吹奏裡に華々しく行われた。明治神宮へは選手の代表が参拝、本県より水泳の小野田一男(明大)選手であった。

この大会は選手団の単位を道府県とし引率の責任は道府県の役人とし参加はスポーツマンの名譽としていた。

選手になると市町村単位でその名譽を称えていた。

大会の名称が日本の激動の政治体制により変更を余儀なくされた。

第一回〜第二回 明治神宮競技大会

第三回〜第九回 明治神宮体育競技大会

第十回〜第十二回 明治神宮国民体育大会

第十三回 明治神宮国民錬成大会

主催団体として第三回大会から「明治神宮体育会」が加わり、更に十回大会より「厚生省」が加わり、最後の大会には日本体育協会が「大日本体育会」と「学徒体育振興会」に分かれこの両者が主催に加わった。

第五回大会(昭和四年一九二九年)には運動ご奨励の思召しをもって昭和天皇が陸上競技外八種目の競技に行幸された。この行幸によって大会の意義がいつそう高まり、戦後の国民体育大会に天皇皇后両陛下が必ずご臨席されるようになった。(昭和五十八年群馬国体より競技場にエレベーターが設置されたと思う)これは昭和天皇の高齢のため)

第一回大会の県予選会は大正十三年十月十二日静岡高等学校(現城北公園)に於いて行われた。

第一回陸上競技の選手の成績は次のとおりであった。

一般 四〇〇m 優勝田中周司(浜高工) 52秒0

女子 三段跳優勝北島きみ子(森実科) 10m07

一般 円盤投優勝藤田康行(浜高工) 33m38

一般 八〇〇m二位深津健一(浜一中) 3m26

一般 棒高跳二位宮内清(沼津商) 3m26

女子 一〇〇〇m三位北島きみ子(森実科)

一般 砲丸投二位藤田康行(浜高工) 10m92

以上のとおりで陸上静岡の名を高揚せしめた大会であった。以後の大会に於いて入賞者が多く輩出した。

優勝者をあげれば次の各氏である。

第二回大会 女子走高跳 深澤とき(静岡精華) 1m42日本新

青年砲丸投 岡本己之助(清水) 12m24

一般走高跳 加茂正男(小笠) 1m68

第三回大会 青年走高跳 田中平一(静岡市) 1m73

第四回大会 一般走高跳 加茂正男(小笠) 1m80

第五回 優勝者なし

第六回大会 一般四〇〇m中島亥太郎(早大) 49秒8

青年走高跳 望月定次(清水) 1m86

青年日本新

第七回大会 一般八〇〇m保坂周助(女師教) 1分

第八回大会 女子一〇〇m白井寿美子(女師) 12秒9

女子六〇m 白井寿美子(女師) 8秒0

第九回大会 女子八〇mH三井美代子(体専) 12秒0

第十回大会 国防競技となる

第十一回大会 男子中等四〇〇m佐々木利一(浜松興誠) 49秒9

男子中等八〇〇mリレー 山本長樹(浜一中) 内山賢三(浜師) 矢野利治(静師) 佐々木利一(浜松興誠) 1分35秒5

男子一万m競歩 奈良岡健三(沼津高女教) 49分日本新

男子五万m競歩 奈良岡健三 5時間10分22秒

以後の大会は国防競技となり中等学校、青年団が団体で小銃をもって走ったり壁を越えたりする競技や土のう運搬等の競技であった。

この明治神宮大会が戦後の国民体育大会となったのである。当時日本は連合国の統治下にあり、日本人が集団となることが禁止されていたが、スポーツ関係者が願ひ出て昭和二十一年京都・大阪・兵庫いわゆる京阪神で第一回国民体育大会が開催され、選手は「米」持参で参加した。

オリンピックの馬拉ソンを救ったトレーニンング法①

東部陸協 澤田幸作

昭和二十四年秋、静岡商業高校に、村社講平先生が陸上競技の普及指導にみえられた。この講習に参加し、前段、講話、後段、実技指導が行われた。実技指導が終了して、先生から藤枝市の関弥勒君が呼び出された。「関君の走法は、日本人と居ない模範的な走法である。皆もよく観察するように。」関君は、腰高の美しいフォームで、トラックを二周ほど走ってくれた。素晴らしい走法に私も感嘆した。模範走法が終わると、「澤田君」「君は、千五〇〇のタイムは一番良いが、フォームが一番悪い、これから皆の前で矯正する」。二五〇mのトラックを何周も走らされた。私には距離が長すぎ、スタミナが切れはじめた。これが最後と短距離走よろしく、全速力で先生の前をおっ倒れるつもりで走り抜けた。「よし、いいぞー。今のフォームだ、今のフォームを忘れるなよ。」鬼のように見えた先生の顔が、恵比寿様のように見えたのが嬉しかった。翌年、朝鮮動乱が勃発、警察予備隊が誕生した。次男だった私は、農業を諦めて入隊した。同期に、由比町出身の北村順氏（インターハイ・五〇〇〇m七着）がおり、三十年頃まで、同じ中隊で行動を共にした。トレーニンングも二人だけで、豊川稲荷のグラウンドで、暗くなるまで、汗を流した。同僚であったが、競技、練習では常に師と仰いだ。彼の統率力、指導一切をよく観察し、彼の教えは、忠実に守り実行した。それと

共に、陸上競技に関する資料は、何でも目を通し、記録した。特に専門誌の陸上競技マガジンは、常に枕の下に置いて勉強した。三十四年、幹部に昇任、宇都宮駐とん地の陸上競技部監督を任命された。正式の指導者の立場にたつて、心のよりどころを求めて、村社先生に手紙を送った。数日待たずに返事が届いた。競技に関する指導は無かったが、激励の言葉と、最後の行に、現在の日本陸連の科学的（インターバル）トレーニンング、一辺倒には問題がある。と記してあった。この年、東部方面隊内の駐とん地対抗駅伝で優勝三十五年に準優勝した、実績を買われたのか、第三回毎日駅伝（大阪―東京間、六日間）の自衛隊チームのコーチを任命された。この強化合宿に参加する日の朝、村社先生から手紙が届いた。「ローマオリンピックは惨敗したので、貴オリンピックで雪辱を期したいので、貴君も、東京オリンピックを目標に、オリンピックの馬拉ソン選手の育成を頼む」とあった。当時の自衛隊のレベルでは、無理な話だと思ったが、頭の隅に置いた。この合宿では、私が最も尊敬していた監督の小林修氏が、郡山自衛隊の円谷幸吉選手の性格も良く、素質充分将来性豊かと話してくれた。そして三回目の合宿で、初めて円谷と対面した。純朴で折目正しい生活態度、走法の力強さを見て直感した。東京オリンピックの代表となつて、大活躍すると明言した。ヘッドコーチ（元中央大学駅伝部マネージャー）東島氏より絶対不可能であると反対された。もう、今の自衛隊のレベルでは、最終選考会までの鍛練期間が無く間に合わない

との話であった。しかし、私には自らの体験より編み出した、秘密トレーニンングがあった。この合宿で腰を痛め走れなくなった円谷を専任治療し約一週間であつたように治した。この間に東京オリンピックの馬拉ソンに目標を持たせ、秘密トレーニンングを伝授した。その後、二年七カ月で、世界新記録、三年十カ月で、東京オリンピックの馬拉ソンで銅メダルを獲得した。このトレーニンング法は、織田強化本部長に発見され、全国の実業団等に普及され、その後のオリンピックで、金メダル二個、銀メダル三個、銅メダル一個の獲得に貢献できた。次回はその経緯を述べたいと思う。（続く）

静岡リレーカーニバル

第三十九回静岡陸上リレーカーニバルが、四月二十五日静岡市草薙陸上競技場で開催した。小・中学生男女9種目のリレー競技と小学五・六年生男女個人8種目の競技を行った。また男女リレー種目の上位十六チームと小学男子一五〇〇m・小学女子八〇〇mの上位十六人が、第二十六回静岡国際陸上競技大会（五月三日）への出場権を得た。成績は中学男子四百mリレーは、伊豆修善寺A、同一六〇〇mリレーは浜松天竜A、中学女子四〇〇mリレーはミスノACがそれぞれ優勝した。また小学生四〇〇mリレーは浜松陸上が五年、六年男子と六年女子の三種目を制した。（報道）



静岡国際陸上競技大会

五月三日、日本グランプリ第四戦、第二十六回静岡国際陸上競技大会が静岡エコパスタジアム（袋井市）で開催した。特に本県最高レベルの大会とあって、約一万四千人の観衆の声援をうけた。今回は十一月に中国・広州で行われる「第十六回アジア競技大会」の代表選手選考競技会も兼ねており、海外八カ国からの招待選手と日本のトップ選手が、男女十一種目で熱い戦いをくりひろげた。大会では女子二〇〇mで日本の福島千里選手（北海道ハイテクAC）が22秒89の日本新記録を出し大会を盛り上げた。また、本県

の海老原有希選手（スズキ浜松A.C）が女子やり投げ、58 m 59の記録で優勝した。



小学生陸上県選考会

第二十六回全国小学生陸上競技交流大会県選考会が六月十三日、草薙陸上競技場で開かれた。また第二十七回東海小学生リレー競技大会選考会も兼ねた。全国大会出場権を得る十四種目のうち六年男子一〇〇mは山中翔平選手（裾野市陸上教室）が13秒65、同女子一〇〇mは渡辺菜月選手（清水A.C）が13秒81でそれぞれ優勝した。五年、六年四〇〇mリレーは、男女とも浜松陸上Aチームが優勝した。なお八月下旬に全国大会は東京国立競技場で、東海大会は長野県・松本平広域公園陸上競技場で開催された。（報道）

高校総合体育大会

県高校総体は五月二十八日～三十日、静岡エコパスタジアム（袋井市）で開催した。一日目、男子ハンマー投げの高村竜麻選手（浜松商高）が54 m 00の大会新、女子一五〇〇mの榊原美希選手（浜北西高）が4分29秒52の大会新でそれぞれ優勝した。二日目、一〇〇m男子は増田貴選手（島田樟誠高）、女子は奥野由布子選手（菰山高）が優勝、男子四〇〇mリレーは東海大翔洋が41秒31で頂点に立った。三日目は男子やり投げ、浅田侑嗣選手（常葉菊川高）67 m 84大会新で優勝、一六〇〇mリレーは男子が浜名が大会新で初優勝、女子は浜松市立が三年連続優勝を果たした。



東海高校総体

東海高校総体は六月十八日～二十日、名古屋瑞穂公園陸上競技場（愛知県）で開催された。一日目、男女十種目の決勝を行った。男子四〇〇m伊藤卓選手（浜名高）が46秒99の大会新で優勝、また同種目は本県勢が五位まで上位を独占した。二日目は男女十四種目の決勝を行なった。男子走り高跳びの小池輝選手（浜松市立高）は2 m 10の自己新で優勝、また同校、平龍彦選手も2 m 7の自己新で二位入賞。最終日三日目は、男女十四種目で決勝を行い、男子一六〇〇mリレーは浜名チームが3分13秒28で初優勝に輝いた。またフィールド男子やり投げは浅田侑嗣選手（常葉菊川高）が66 m 37大会新で優勝、砲丸投げは、岡部義正選手が15 m 41自己新をマークし頂点に立った。（報道）



国立大学（東海地区）陸上競技大会

六月二十六日、第五十九回東海地区国立（八校）大学陸上競技大会が、草薙陸上競技場で開かれた。男子十九種目・女子十三種目で対抗戦を行った。成績は次のとおりである。

- 男子総合
- 第一位 静岡大学 一一六點
 - 第二位 名古屋大学 一〇五點
 - 第三位 愛知教育大学 九六點
- 女子総合
- 第一位 愛知教育大学 一四四點
 - 第二位 名古屋大学 六二點
 - 第三位 岐阜大学 四一點



県陸上競技選手権大会

平成二十二年度、第六十五回県陸上競技選手権大会を静岡・草薙競技場で七月十一日開催した。一日目は男女二十種目の決勝を行った。男子は走り幅跳びでスズキ浜松の鈴木義啓選手が7m71の自己新記録で初優勝した。女子は二〇〇mで筑波大の佐野布由実選手が24秒32の自己新記録で連続優勝を果たした。二日は男女二十一種目の決勝を行った。男子は棒高跳びでチームミズノの鈴木崇文選手（アジア大会代表）が5m50で優勝した。女子は一〇〇mで佐野布由実選手が11秒93で、前日の二〇〇mに続いて優勝した。（報道）



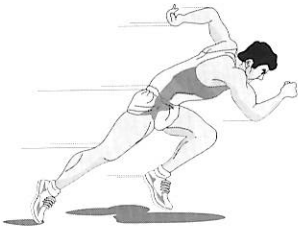
県中学校・二大会

○県中学選抜陸上競技大会

第二十五回県中学選抜陸上競技大会は七月三日静岡市草薙陸上競技場で開催した。男女二十二種目の決勝を行った。男子は延べ三十人、女子は二十九人が参加標準記録を突破し、八月の全日本中学生陸上競技選手権大会の出場権を得た。一年生ではただ一人、浜松南陽中学の天城帆乃香選手が二種目（女子一〇〇m・走り幅跳び）で標準記録を突破した。

○県中学総合体育大会・県通信陸上

第六十三回、県中学総合体育大会・第五十六回全日本中学通信陸上静岡県大会は七月十七〜十八日静岡市草薙陸上競技場で開催した。一日目、伊豆修善寺中学の日吉克実選手は三年男子一〇〇mで10秒56（追い風参考）で優勝。同種目女子は清水第四中学の松本沙耶子選手が12秒05（追い風参考）で制した。二日目、男子共通二〇〇mでは日吉克実選手が21秒90（大会新記録）で、前日の一〇〇mに続いて優勝した。また共通三〇〇mでは浜松舞阪中学三年の南嘉紀選手が8分59秒93で優勝、この種目での標準記録を突破した。（報道）



クラブチーム紹介

焼津市陸上競技スポーツ教室

コーチ 藤村雅彦

本教室は、焼津市陸上競技協会の組織の一部として陸上競技の普及を目指し、今から十数年程前に発足した。

本教室の目的は以下の通りです。

- ① スポーツに関心がある子どもたちや一般の人たちに陸上競技を中心とした多種多様な体の動きを体験することを通して運動やスポーツの楽しさを体得させる。

② 陸上競技に関するいろいろな運動を通して陸上競技に関心を持たせる。

③ 陸上競技に関する個々の可能性を引き出しながら技術を高める基礎を養う。

今現在、九十名程の小学生が毎週一回午前九時から十一時半まで焼津市陸上競技場で気持ちよい汗を流している。

最近では、送迎の保護者の方々も子どもたちと一緒に練習に参加する微笑ましい姿が見られるようになった。

指導員は、七、八名で発達段階に合わせてクラス分けをし、指導しています。

練習内容は、ウォーミングアップから始まり、前半の一時間を肩関節や股関節、膝関節の柔軟性を高めるための各種ドリルやリズムやテンポを養うためのスキップ走等の練習に費やします。後半の一時間は流しやウインドスプリント走、ウエーブ走などで基本的な走りの練習を中心としています。

本教室の主な実績として、

平成十三年 六年女子

全国少年少女東海大会

四〇〇mリレー 第四位

静岡国際陸上競技大会

平成二十一年 五年男子

四〇〇mリレー優勝

平成二十一年 四年女子

静岡リレーカーニバル大会

四〇〇mリレー第二位

リレー種目に於いては、毎年草薙陸上競技場で開催されている県大会レベルの競技会に於いては入賞。加えて、個人種目に於いてもジュニアクラブ選手権大会や十月の県大会等々に於いても上位入賞を果たしています。

故小掛照二氏功績

大会役員歴

世界陸上選手権
オリンピック
第1回～第3回 日本選手団 団長兼監督
ミュンヘン大会 陸上競技コーチ
ロサンゼルス・ソウル大会 陸上競技監督
バルセロナ大会 日本選手団 本部長
アトランタ大会 日本選手団 総監督
シドニー大会 シドニー本部 本部長
ユニバーシアード
アジア大会
バッファロー大会 日本選手団 団長
第5回・第6回大会 陸上競技コーチ
第7回～第10回大会 陸上競技監督
第12回広島大会 日本選手団 副団長
第13・第14回大会 日本選手団 団長

表彰歴

昭和31年 日本陸上選手権 三段跳 優勝
世界新記録樹立 16m48
日本陸上競技連盟「世界記録章」
「日本記録章」受章
日本陸上競技連盟「勲功章」受章
日本陸上競技連盟「岸記念賞典」受賞
日本陸上競技連盟「秋父宮章」受章
文部大臣「スポーツ功労者表彰」受賞
日本陸上競技連盟「功労章」受章
平成4年 「藍綬褒章」受章
平成3年 国際オリンピック委員会「オリンピック
オーダー銀章」受章
平成8年 「旭日中綬章」受章
平成12年 「東京都功労者賞」受賞
平成17年
平成19年

本教室の卒業生の中には、陸上競技だけでなく、野球、サッカー、バスケットボール等で活躍しての者もいます。最後に、本教室の指導者の共通理念は「子ども達にとって競技に於ける勝負の時期は今ではなく、高校生から先のステージであるとし、そのために子どもたちの発達段階に合わせ、決して無理強いをさせず、基礎・基本な動きを習得させる。◎何よりも自ら体を動かすことの楽しさを感じ取れる大人になることを願っています。」

私たち指導者の最大の喜びは、運動の得意な子どもも苦手な子ども、毎週グラウンドに足を運び、目標を持って一生懸命練習に取り組んでいる姿を実感できることです。



県市町村対抗駅伝大会(十一回) 第二回実行委員会 開催

九月三日、静岡新聞社放送会館に於いて、第二回実行委員会が行われた。県教育委員会・県体育協会・静岡新聞・静岡放送・県陸上競技協会の関係者が出席し、駅伝事務局から詳細について説明がなされた。特にこれまでの経過説明と次回(十二回)大会の要綱案が提出され審議した。
(広報)



編集後記

今夏は猛暑日が多いなか、各大会とも選手諸君らは精一杯頑張っていたと思う。明るいニュースでは、世界ジュニア陸上で飯塚翔太(中央大、藤枝明誠高出身)選手が男子二〇〇mで金メダルを獲得した。また全国高校総体・全日中・全国小学生大会等に数多くの本県選手が参加し、個々の目標達成に懸命であったことなどが上げられる。その他大会を支えている審判員各位にも感謝したい。

編集

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫(編集・文責)

・水谷陽介(編集委員)

・片岡佳美(編集委員)

・矢邊進

・内田光英

・亀山健士

・山口文雄

・松井清和

・田部井昭博

○写真(陸協報道 大多和・橋本)

(印刷・大日紙業株)



5月22日 県健康長寿団体 写真提供
すこやかマラソン5kmスタート (伊藤英一氏)



Photograph

- 静岡リレーカーニバル
- 静岡国際陸上大会
- 県選手権大会
- 東海国立大学大会
- 高校総体県大会
- 中学陸上競技県大会
- 県マスターズ大会

